

期待される検体測定室の役割 —検体測定室でこそ実現可能な食後血糖値スパイク検査を中心にして—

桑 克彦*

一般社団法人臨床検査基準測定機構

要 旨：平成 20 年度から開始された特定健康診査・特定保健指導制度は、内臓脂肪型肥満に着目し、その要因である生活習慣を改善するための保健指導を行い、もって糖尿病などの生活習慣病の有病者や予備群を減少させることである。このうち糖尿病については、国家的にも緊急を要する課題であり、かつ国際的な課題にもなっている。食後高血糖にかかわらず、メタボリックドミノにより引き起こされる様々な病気の主な原因は、食べ過ぎ、飲み過ぎ、運動不足である。糖尿病になると完治は難しいが、食後高血糖すなわち血糖値スパイクの時点で早期発見できれば、食事や運動の見直しにより改善が可能である。健診や特定健康診査では食前の検査であることから、食後に血糖値スパイクがある人でも正常と判定されるため、血糖値スパイクは見つからない。しかし、身近な保険薬局の検体測定室では、食後 1~2 時間について、指頭血を測定検体とし、POCT(Point-of-Care Testing: 臨床現場即時検査)対応機器・試薬を用いての検査のカジュアル化が実現できる。血糖値スパイクの改善は可能であり、食事相談などにより、食事の内容や食べる順序および食後の運動などについて対応する。まさに血糖値スパイクの改善の鍵は、検体測定室にあるといえる。

キーワード：検体測定室，特定健康診査，メタボリックドミノ，糖尿病，血糖値スパイク，POCT 対応機器・試薬，食事の順序